

実践躬行

JISSEN KYU-KOU

じっせんきゅうこう【実践躬行】「理論や信条をそのとおりに自分自身で実際に行うこと。」(大辞林より)

突撃！
日本を元気にする
公認会計士へ

Engage in the Public Interest
社会に貢献する公認会計士

No.007 2019年2月1日発行

発行元: 日本公認会計士協会
〒102-8264 東京都千代田区九段南4-4-1
https://jicpa.or.jp
編集: 日本公認会計士準会委員会 実践躬行チーム

Profile
No.1

変化は成長の機会

チャレンジし続ける

北山 久恵

北山 久恵

きたやま ひさえ

公認会計士
1982年 公認会計士試験合格後、朝日監査法人
(現: あずさ監査法人)に入社
1986年 公認会計士登録
1991年 マネジャーに就任
1995年 シニアマネジャーに就任
1999年 アソシエイトパートナーに就任
2006年 パートナーに就任
2013年 常務執行理事に就任
グローバルな大規模上場会社の監査責任者を務めている。
1987年、日本公認会計士協会近畿会の女性会計士委員会創設メンバーとして協会活動をスタートし、幹事として女性会計士委員会委員長、監査会計委員会委員長等を担当する。
現在は、本部理事、近畿会副会長を務めている。2019年7月より近畿会会長就任予定。その他、大阪府男女共同参画推進財団理事、大阪府財産評価審査員委員、大阪府公営企業審議会委員、日本監査研究学会理事等も歴任している。

公認会計士をめざそうと思ったきっかけを教えてください。

初めて公認会計士を知ったきっかけは、大学時代の父からの紹介でした。当時は男女雇用機会均等法施行前で、大学卒女性の就職先があまりない時代でしたので、女性として仕事をしたいと考えた時に、男女関係なく専門職として能力を発揮でき、女性が活躍できる職業を選びたいと考えました。入学して暫くは大学生生活を謳歌していましたが、父の話をきっかけに簿記検定から勉強を始め、その後は友達と試験委員著作の本や、会計のバイブルのような基本書と一緒に読むといった、割とアカデミックな勉強方法をした結果、公認会計士受験を乗り切ることができました。

若手時代に苦労したことはなんですか。

今でこそ女性の合格者数は全体で20%くらいですが、合格した当時は1%も無く、合格者がゼロ人の年もあるくらいでした。女性自体が珍しい存在でしたのでチャホヤもされましたが、不自由なことも本当にかつたです。自分が担当していた会社の出張往査では、当時、工場がある地方にはビジネスホテルもなく、男性のみの相部屋で泊まれるような旅館しかありませんでした。「担当会社の主要工場に往査したい」と大先生に何度も頼んだ結果、出張に同行してもらい、公的会館等で宿泊ということで、やっと出張が可能となりました。このように女性が初めて挑戦する度の一つひとつクリアしなければならぬ壁があり、当時の先輩、同僚、クライアントと一緒にその壁を取り除いてくださったことに、本当に感謝しております。

公認会計士人生でのターニングポイントを教えてください

シニアに昇進したタイミングで部門異動がありました。クライアントも監査チームメンバーも、環境が何もかも変わり、大規模エンゲージメントのインチャージに抜擢され、さらに上司も事務所でも有名な厳しいパートナーという難しい局面の中、その上司からこの言葉を賜りました。「会社のインチャージは、恋人を想うように、常にクライアントを想え!」。クライアントが何を考えていて、

何を悩んでいるのか、何を求めているのか、自分は何をしてあげられるか、恋人に接するようにクライアントに対しても行動しなさいと。このことは常に心掛けた。その分、ビジネスの理解や会計の勉強も必要で、肩凝りも鉄板のように凄かったです(笑)、本当に良い経験になりました。当時の経理部長とは、クライアントと監査人として強い信頼関係を築くことができ、役員になられ退職された後でも、私の応援団の1人となって頂いて、時々電話や会食をして、アドバイスをもらっています。監査の厳しさとともに、やりがいを感じることができたこの経験は、自分の公認会計士人生の基盤となっています。

監査法人の理事の仕事に関して教えてください。

あずさ監査法人の常務執行理事として、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。従来、ダイバーシティは福利厚生の一環でしたが、今では重要な経営戦略の一つです。多様な個性を持つ一人ひとりが、お互いの多様性を認め、活かし合いながら高い能力を発揮し合えるような、しなやかで成熟した組織を目指しています。具体的な施策としては、キャリア意識を高める女性職員向けの研修や、男性管理職向けのダイバーシティ研修による意識改革など、女性活躍のための取組を積極的に実施しています。また、時間ではなく成果の評価による長時間労働の是正、フレキシブル・ワーク・プログラムや在宅勤務制度など柔軟な勤務形態の導入をして、「働き方改革」の実現に向けて取り組んでいます。長時間、疲れながら仕事をするよりも、限られた時間の中でスケジュールを組みリスクアプローチを意識した監査を徹底した方が、品質向上にも繋がりますよね。

近畿会副会長の活動内容について教えてください

私が公認会計士になった翌年の1987年、女性会計士が少なかったことから、近畿会で全国初の女性会計士委員会が設立されました。その時の創設メンバーとして誘われ、活動を始めたのが最初の協会活動でした。現在は、日本公認会計士協会の本部理事や近畿会副会長として様々な活動をしてい

す。中でも特にやりがいがあるのが広報です。一般的な広報活動や大学・高校生への職業紹介、中学・小学生への会計基礎教育を継続的に、公認会計士の認知度を高めています。積極的な広報活動を展開し、公認会計士の業務の正しい理解、業務の魅力伝えていきます。これにより、公認会計士を目指す受験生を増やし、公認会計士業界の優秀な人材確保に繋がっていきたく考えています。また協会活動は土業との交流が増えるのも魅力です。他の土業との勉強会などを20年間も行っています。公認会計士とは別の視点を知ることができる点がとても面白いです。普段の仕事でも法律や専門知識を知り合った土業の方から聞くことができますし、不動産鑑定士と共同研究して減損の本を、また弁護士と「社外監査役の理論と実務」の本を出版したりもしました。

近畿会で掲げている「先駆けの精神」とは何でしょうか?

近畿会には全国に先陣を切って、新たなことに取組む「先駆けの精神」があり、近畿会が昔から掲げているスローガンです。実は補習所も近畿会が発祥なんです。その他にも、全国研究大会や組織内会計士や先程話した女性会計士委員会など近畿会発のものが多いです。東京会に続く二番目に大きな地域会として新たなことに挑戦し、実行して本部に提言する、物言う関西人の精神は、近畿会ならではの考えです。

プライベートについて

仕事とプライベートは、メリハリをつけて、平日は仕事、休日は趣味の旅行とグルメ等で、ストレスは週週には持ち越さないようにしています。いい仕事をするためには、ワーク・ライフ・マネジメントが重要です。平日の夜は監査法人のパートナーや近畿会副会長としての活動で、ほぼ潰れてしまします(笑)。しかし、土日は完璧にオフモードで

一番のストレス解消法はおしゃべりと美味しいものを食べることで、更に旅行でリフレッシュします。年に最低1回は、10日位の長期休暇をとって、家族と海外旅行しています。有名な観光地はほとんど行きましたよ。また宝塚歌劇やコンサート、最近では歌舞伎や文楽など日本文化にも興味があります。ワークもライフも楽しんでいます。

日頃心掛けていらっしゃることで、伝えたい・教えたこと

日々の仕事でも、社会にいかにか影響を与えているかを、常に考えることを大事にしています。新米マネジャーとしてクライアントの営業監査をしている時、営業部長に債権管理や在庫管理の指摘をズケズケとしたことがありました。10年後、別のクライアントで、パートナーとして、社外監査役になられたその方にお会いし、「あの時、指摘されたことを整理したら、いろんな問題があることが発覚しました。北山先生に指摘してもらったおかげで改善して、より良い会社になりました」というお話を頂きました。M&Aや難しい問題への対処だけでなく、普段行なっている業務の中でも、会社から感謝してもらえることは、本当にやりがいのある仕事だと強く感じます。また、自分が今、このように自由に仕事をさせてもらっているのは、周りのサポートのおかげでもあります。これからは今までに自分が受けてきた恩恵を後進に繋げていきたいです。

- 仕事のやりがいや魅力を若い人に伝えていきたい。
- 働きやすい職場環境の整備を促進し、魅力ある公認会計士業界にしていきたい。
- Give Back! 後進の育成に努めたい。
- 変化は、成長の機会と思って、チャレンジし続けたい。

自分はシニアマネジャーに昇進したタイミング、環境が大きく変わった中で人生の転機を迎えました。恐れず新たな環境に飛び込んでいきましょう!